

1. 目指す学校

【平井西小学校 教育目標】

○やさしい心 ○じょうぶな体 ○かんがえる力



目指す学校像	目指す児童像	目指す教師像
○子供一人一人が輝き、生涯教育の基礎作りが発揮される学校 ・子供にとって、学びたくなる学校 ・保護者にとって、通わせたい学校 ・教員にとって、働きたくなる学校	○自己肯定感、自己有用感をもち、夢と希望をもつ児童 ・きまりやマナーを守る児童 ・失敗を恐れず意欲的に取り組む児童 ・自分の考えを表現できる児童 ・素直で思いやりの心を持った児童	○時代の変化やキャリアステージに応じて自らの資質能力を高めることのできる教師 ・児童の心をつかめる教師 ・向上心のある教師 ・労を惜しまない教師 ・組織人としての教師 ・サービスに敏感な教師

経営の基本理念

「教える」から「育てる」を念頭に、学校教育目標の具現化に取り組み、子供たちの主体的な学びを促し、生き生きと活動する学校づくりを推進する。

2. 教育活動の目標と方策

(1) やさしい心；相手の立場や気持ちを理解する心の育成

○あいさつ・正しい言葉遣いのできる児童の育成。

○自他の生命を尊重し、共に生きる心を大切に育て、児童が互いに豊かな人間性・社会性を育成し合う関係を築く。

方策

- ・児童の精神的ストレスを軽減させるための教育相談体制の充実
- ・いじめ・不登校・問題行動の予防体制の確立（学級満足度調査の実施）
- ・特別支援教育の協同的校内組織の確立（全教職員で情報共有・統一指導）
- ・保護者・地域との連携、児童の指導に当たって「担任以外は副担任」を原則
- ・集会や交流体験活動を通じた自己肯定感・自己有用感の育成

(2) じょうぶな体：基礎体力の向上と望ましい生活習慣の育成

○健康な児童は中休み、外で遊びを行い、健康で丈夫な体作りを推進する。

○基本的な生活習慣の確立と危険を予知し、回避する能力の育成を図る。

方策

- ・タブレット端末使用における健康面へのルール統一
- ・全教育活動を通じた体力向上の取り組み
- ・健康的な生活習慣の確立（健康診断後の治療率90%以上）
- ・給食指導と関連した食育の推進（アレルギー対応や食品ロス）
- ・感染症予防への継続的な指導（検温・健康観察、手洗い、消毒、換気）

(3) かんがえる力：学び合う力とコミュニケーションの向上（重点）

○学習に集中できる時間低学年15分、中学年20分、高学年30分という目標をもつ。

○児童の発達段階を考え、系統的な学びを実践しながら基礎的・基本的な学力を確実に身につけさせる。

方策

- ・体験的・操作的な学習活動の充実と主体的・対話的な深い学びの確立
- ・タブレット端末を利用した多様な学びの推進
- ・確かな学力向上推進プランの組織的対応による学力向上の取り組み
- ・個に応じたわかる授業の創造（授業におけるユニバーサルデザイン）

- ・東京BD年6回の診断テストと西っ子スタディエブリデイの定着
- ・司書と連携した図書館の環境整備と探究的な読書活動の推進
- ・外国語活動指導の継承、特別の教科道徳における指導の工夫
- ・校内研修の活性化と学力調査結果等の分析を生かした授業改善
- ・発達段階に応じた学習規律と学習習慣の確立
- ・自尊感情を高める授業の振り返り

### 3. 今年度の取り組み目標と方策

#### (1) 学び合う力とコミュニケーション力の向上

「児童による学校評価アンケート（授業満足度）80%を目指す」

「7割の児童が漢字を正確に読み・書きできる。計算を正確にできる。低学年90点  
中学年85点、高学年80点」

「年間読書冊数目標 低学年60冊 中学年40冊 高学年30冊」

- 学校行事等を見直し、余裕をもって学習指導に充てられる時間を捻出する。
- タブレット端末によるオンライン学習やデジタル教科書などの情報機器を活用し、授業の充実を図る。
- ベーシックドリルを活用し、読み・書き・計算の基礎学力の定着を図りながら、補習で、確実に習得する。
- 図書館の環境整備と蔵書の充実を図り、読書活動への興味・関心を高める。
- 個に応じたきめ細やかな指導を行うと共に、ペア学習やグループ学習を通して、児童が良さを発揮し合い、認め合い、学び合う活動を大切にする。
- 授業の振り返りを大切にし、学びを実感できる授業を積み重ね、児童の自尊感情を高める。
- 発達段階に応じた学習規律と学習習慣を確立し、安心して自分の意見をいえる学習集団を作る。
- 校内研修を活性化し、学力調査結果等の分析を生かし、組織的に授業改善と学力向上に取り組む。

#### (2) 相手の立場や気持ちを理解する心を育む。

「児童による学校評価アンケート（みんなと仲良くする・進んで挨拶をする）80%を目指す」

「いじめ・不登校を出さないよう努力する。」

- 気持ちのよいあいさつ・正しい言葉遣いのできる子を目指し、児童自らあいさつをしようとする実践的な態度を育む。日常から教職員は、正しい言葉で話すことや、黒板などに丁寧な文字を書くこと等に留意し、言語環境を整える。
- 特別活動を中心に全教育活動を通して、相手の気持ちを理解し、自分の考えを的確に伝え、実践に生かせる能力を育て、最後まであきらめずにやり遂げる体験を積み重ね、自尊感情を高める指導を行う。
- 人権に配慮した教育、特別な教科道徳を中心とした道徳教育の充実を図る。
- エンカレッジルーム等を活用して心の居場所を確保する。
- 地域学習・体験交流学习や特別活動の中心にして、自己肯定感を高める。
- 特別支援教室巡回指導について理解を深めると共に、児童の実態や変容について情報交換を定期的に行い、共通理解を図る。

#### (3) 健康・体力の増進を図る。

「児童による学校評価アンケート（進んで体を動かし、運動することが好き）（好き嫌いをしないで給食を食べている）80%を目指す」

- うがい・手洗いなど学校生活における感染症予防の意識を高めるとともに、食後の歯みがきなど生活習慣の確立を図る。
- 朝遊びや体育の授業の充実を通して体力向上を図る。
- SNSルールをもとに、タブレット端末等の使用方法について共通理解を図る。
- 学校だよりや保健だよりを通して家庭と協力し、基本的生活習慣の確立を図る。
- 給食指導や食育を計画的に実施し、望ましい食習慣を育成する。

(4) 安全で安心な環境整備の徹底を図る。

「学校評価・外部評価での満足度80%を目指す」

- 感染症予防や安全指導、防災教育をはじめとする学校の危機管理体制について、全教職員で確認と共通理解を図る。
- 校舎内外の整理・整頓に努め、快適な学習環境を維持する。
- セーフティ教室、薬物乱用防止教室、自転車免許教室等を実施し、児童の危険予見能力・回避能力を育成する。

(5) 保護者・地域と共育・協働に努める。

「学校評価・外部評価での満足度80%を目指す」

- 地域に関連する学習や行事を行う。
- 学校便り、学年便り、HP等を通じて、日常的に説明責任を果たす。
- 家庭でのタブレット端末の扱いについて、保護者の理解と協力を得る。
- 学校関係者評価の充実に努め、教育活動の改善・実施・分析・公表を行う。